

# 工芸史・工芸技術史研究室 活動報告 2

令和元～2年度（2019～2020年度）

History of Kogei / History of Kogei Technology Laboratory Activity Report 2

●三宮千佳／富山大学学術研究部芸術文化学系

SANNOMIYA Chika / School of Art and Design, University of Toyama

●Key Words: 工芸, 青銅花器, 寄贈, 展示

本研究室は、平成25年の開室以来、収蔵品の調査研究、保存管理、展示公開等の業務にあたっている。実物作品をとおして研究と教育を推進し、研究成果の企画展等により、地域に貢献することを目標としている。今回は令和元～2年度(2019～2020年度)の作品寄贈、展示活動その他について以下に報告する。

## 1. 作品寄贈

### (1) 第2次大郷コレクション

平成27年(2015)、富山市出身の華道家大郷理明氏(古流松應会)より、長年の活動の中で蒐集された近代青銅花器を中心に漆工芸、木工芸、七宝工芸、竹工芸、陶磁器計312点の寄贈を受け、「大郷コレクション」として収蔵し調査研究にあたってきた。

令和元年(2019)には大郷氏より再び、日本の近代青銅花器の優品114点、漆工、木工、陶磁器、竹工の花器48点、花器の図面(デザイン画)110点、花を活ける艶やかな女性が描かれた江戸後期の浮世絵36点、染物2点の計310点の寄贈を受け、整理・写真撮影の上、保管した。さらに古流の伝書や生花百瓶図などの書籍50冊の寄贈も受け、芸術文化図書館の蔵書として登録した。

今回寄贈された近代青銅花器で、銘のある作品では、高岡にゆかりの深い須賀松園、須賀月真をはじめとし、金屋五郎三郎、村田整民、木村渡雲、秦蔵六、定塚義正、原田峰雲、市川東玉斎、河内宗明、本間琢斎、九嶋金重、亀楽斎翠雲、東光斎涌芳、亀文堂、田村清雲、岡崎雪聲、香取秀真、香取正彦など江戸後期から昭和前期に活躍した錚々たる金工作家の名が見え、貴重な資料群であることがわかる。

平成27年に寄贈を受けた作品と合わせると近代青銅花器だけで336点となる。また総点数は662点となる。国内でこのようにまとまった数の近代青銅花器を収蔵している博物館等の機関は他にないと思われ、銅器の街に立地し金工の研究・教育に携わってきた本学部として、今後大郷コレクションの調査研究の推進は急務であり、近世から近代にかけての日本の金工、華道を通して、伝統文化や美意識の一端を解明する意義深い研究になると考えている。

### (2) 後藤義雄作品

令和2年、元高岡短期大学教授の後藤義雄氏(1926～2013)の漆工作品、「乾漆提盤」、「乾漆盛器」、「乾漆合子」「線文食籠」、「からたち文手筥」、「乾漆百稜盛器」、「乾漆盛器麻の葉」、「箔溜盛器」、「乾漆溜塗盛器」計9点の寄贈の申し出があり、受けることとなった。すでに収蔵している「乾漆稜花形食籠」と合わせると10点を収蔵することとなる。今回寄贈を受けた作品は、昭和23年(1948)から平成20年(2008)までの作品で、形状、技法ともに幅広く、後藤氏の漆芸家としての仕事の全貌がうかがえるコレクションとなった。

## 2. 展示活動

### (1) 学部内での企画展

【令和元年度】「大郷コレクションの青銅花器 一炎の想い・花の願いー」

会期：令和元年11月29日～令和2年1月9日

場所：本学部 TSUMAMA-HALL (エントランスホール)・展示室(H184教室)

協力：華道家 大郷理明氏(古流松應会)

関連イベント：

#### 1. 講演会「彷徨える青銅花器といけばな」

日時：令和元年11月29日18時15分～19時15分

場所：本学部 B116教室

※大郷氏と室長三宮、副室長三船温尚(当時)による座談会形式で開催。

#### 2. 生け花実演「床の間のいけばな 真・行・草」

日時：令和元年11月29日12時10分～13時

場所：本学部 TSUMAMA-HALL (エントランスホール)

※大郷氏による華道実演と解説。

第2次大郷コレクションの初披露の展覧会を開催した。近代青銅花器を中心とする花器、花器の図面(デザイン画)、浮世絵を展示した。本展は一般公開とし、青銅花器の精緻な美と技法が、日本のいけばな文化の中でどのように生まれ、活かされてきたのかを学内外に伝える機会となった。

本企画に併せて、大郷氏を囲んでの座談会形式による講演会、およびいけばな実演を開催し、学内だけではなく一般市民の参加もあり、好評を得た。



写真1 大郷コレクションの青銅花器展 会場の様子

【令和2年度】「アジア・アフリカの工芸」

会期：令和2年11月27日～令和3年1月7日

場所：本学部 TSUMAMA-HALL（エントランスホール）

収蔵品の中から、アジア・アフリカの工芸27件を展示した（一般公開）。インドのコンド族真鍮工芸、調理器具や衣装箱などの日用品、牛・ヤギ・象の首につけるベル、中央アジアのパシュトゥン族・ウズベク族のアクセサリ、アフリカのレンディレ族、セマフォ族などの椅子や枕、モロッコの皿、タイの食器など、世界の多彩な工芸の技を知る機会となった。



写真2 アジア・アフリカの工芸展 会場の様子

(2) 学外機関での特別展

「鑄物・モダン 花を彩る銅のうつわ」

会期：令和3年3月10日～5月16日

場所：泉屋博古館（京都）

主催：泉屋博古館、富山大学芸術文化学部、京都新聞  
後援：京都市、京都市教育委員会、京都市内博物館施設連絡協議会、公益社団法人京都市観光協会、NHK 京都放送局

特別協力：須賀正紀、大郷理明

関連イベント：

1. アートサロン「銅花器をめぐる東アジア三千年

の伝統」（4月24日、14時～16時、泉屋博古館講堂）  
パネリスト：三船温尚（富山大学芸術文化学部客員教授）、三宮千佳、廣川守（同館館長）、コーディネーター：竹嶋康平（同館学芸員）

2. 連続公演（いずれも14時～15時半、同館講堂）  
「銅花器の源流—中国銅花器の系譜」（廣川守、3月27日）／「日本に銅花器がやってきた—先人たちの銅と花がある暮らし—」（竹嶋康平、4月3日）／「いけばなと近代青銅花器—大郷コレクションの寸筒・薄端・水盤—」（三宮千佳、4月10日）／「人類が極めた蠟型鑄造法—ロウと炎と青銅の技」（三船温尚、4月17日）  
3. ワークショップ「ロウで作品を作ろう—鑄型つくりから鑄造まで」（三船温尚、4月25日）

中国古代青銅器の住友コレクションが知られる京都の泉屋博古館と本学部が共同主催で特別展を開催した。大郷コレクション近代青銅花器と合わせ、高岡市美術館所蔵の青銅花器、近代蠟型鑄造の発展に貢献した高岡の須賀松園工房の作品と蠟型、日本の銅花器の源流である中国青銅器を合わせ、全93点を展示した。

関連イベントではアートサロンや連続講演を行い、図録には須賀松園工房の聞き取り記録も掲載した。



写真3 鑄物・モダン展 会場の様子

3. 授業での活用

「博物館実習」や「工芸技法・材料」などの実習で、令和元年度は8件、令和2年度は4件の貸し出しがあった。実習において収蔵作品を活用し、学生が実物作品に触れながら学ぶ、実践的な授業を展開している。

4. 地域プロジェクトでの作品展示

高岡市金屋町、高岡市、本学部が連携して実施している地域プロジェクト「ミラレ金屋町」（令和元年9月21、22日）に対し、収蔵品の金工、漆工、木工約20点を貸し出し、各町家で展示した。

令和元～2年度 室員

室長 三宮千佳（美術史、博物館学）

副室長 三船温尚（金属工芸）

室員 高橋誠一（漆工芸）、内藤裕孝（木工芸）